研究計画書の作成について（博士後期課程）

〇なぜ研究計画書を作成するのか？

…大学院への進学の際には必要な書類として研究計画書の作成・提出が求められます。特に、博士後期課程の場合は、修士課程と比べて分量も多い場合がほとんどです。これは、博士後期課程の学生が目指すべき研究と修士課程の学生が目指すべき研究の違いに起因していると考えられます。博士後期課程の場合、その研究において、より大きな学術的成果が求められることになるため、研究を指導する教員もより大きな責任を学生に対して負うことになるといえます。よって、そのテーマを指導することが可能かといったことや、博士後期課程の標準的な年限である３年間でそのテーマに関する研究を完成させることが可能かといったことなどについて、指導教員も十分に検討した上で、研究指導を引き受けるかどうかを決断するので、博士後期課程への進学に際しては、より詳細な研究計画書の提出が求められることになります。

（１）研究計画書に必要な要素

①研究の目的

＝何について明らかにすることを目指しているのか

…博士後期課程において取り組みたいと考えている研究のテーマを明確に示すことが求められます。

②研究の背景

＝❶その研究の持つ社会的意義

…自分が取り組む研究を進めることによって、社会に対してどのような形で貢献することができるのか、あるいはどのような意味があるのかについて説明しましょう。

❷その研究の持つ学術的意義

…自分が取り組む研究を研究史上においてどのように位置づけることができるのか、また、その研究によって得られる成果がどのような形で学術的な貢献をもたらすことができるのかについて説明しましょう。

③研究の手法

＝❶研究の主たる対象

❷研究に用いる主な手法

❸研究のスケジュール

❹これまでの自身の研究成果の蓄積及びそれとの関係性

…何を対象として（❶）、どのようなアプローチによって研究を進めるつもりなのか（❷）を明示し

ましょう。

また、３年間で研究を完成させるためには、１年ごとの区切りを目安として、それぞれでどの段階まで研究を進めていくか具体的な見通しを立てる必要があります（❸）。

それから、博士後期課程の場合は、すでに修士論文研究などを通じて進めてきた自分の研究成果を基盤として、それを発展させていくことが多いので、修士論文研究における成果と博士後期課程における研究の関係についても説明しましょう（❹）。

④想定される研究の成果

＝どのような仮説を設定し、どのような結果が想定できるのか

…これから取り組もうとする研究がどのような成果を想定しているのか、研究計画書作成の段階において設定している仮説とそれに対して想定される結論を明示する必要があります。

⑤研究の独自性

＝先行研究に対する独自性がどこにあるのか

…博士の学位授与は、学術的な貢献や成果が大きいものであると評価できるかどうかも重要な基準となります。そして、それはそれまでに蓄積されてきた多くの学術的成果に対して、どのような新たな知見を加えることができたのか、すなわち、研究のオリジナリティというものがより重視されることになるので、自分が取り組む研究が、どのような点で先行研究に対して新たな知見を示し得ると考えているのかを明示しましょう。

（２）公益大大学院における「研究計画書」の書式との適合

①研究の目的・志望理由（５００字）

→（１）の「①研究の目的」を中心に、なぜ公益大の大学院への進学を希望するのか、また、その教員に研究の指導を希望するのかについて理由を書きましょう。

②研究テーマ設定までの経緯とこれまでの研究活動（１５００字）

→（１）の「②研究の背景」の「❶社会的意義」と「❷学術的意義」の双方と、「③研究の手法」の「❹これまでの自身の研究成果の蓄積及びそれとの関係性」の内容を整理して書きましょう。博士後期課程では、研究活動が最も重視されますので、一般的に「②研究の背景」は、「❷学術的意義」により重点を置いて書くことが望ましいです。

③研究の具体的内容と進め方（２０００字）

→（１）の「③研究の手法」の「❶研究の主たる対象」、「❷研究に用いる主な手法」、「❸研究のスケジュール」を分かりやすく整理して書きましょう。

④研究の到達目標（１０００字）

→（１）の「④想定される研究の成果」と「⑤研究の独自性」のそれぞれの内容を整理して書きましょう。

（３）研究計画書作成におけるアドバイス

①計画書はできるだけ具体的な内容としましょう

→「政治と行政の関係を考察したい」など、一般的すぎるものではなく、どういったことを題材／事例として取り上げ、何をデータ／資料として分析するのかなど、具体的な対象や分析材料を明示しましょう。審査（面接）の時間は限られているので、本来は、研究計画書に記されているはずの研究手法に関する内容が具体性に欠けていると、その内容の確認などに時間が取られてしまい、審査（面接）の際に評価すべき点を主査・副査が十分に判断できなくなることにつながることがあります。

②指導を希望する教員とのマッチングを確認しましょう

→指導を希望する教員の研究テーマと、自分が博士後期課程において進めていきたいと考えている研究テーマが合致している、あるいは近い関連性があるかどうかを十分に確認しましょう。

～関連性が低い、あるいは専門外となると判断された場合には、どれだけ筆記試験棟の成績が良くても指導を引き受けてもらえない場合があります。就職活動などをする場合でも、業界研究や企業研究など、自分が進みたいと思う進路や企業について十分に調査すると思いますが、研究の場合も同様です。研究指導を希望する教員の研究テーマなどについては、事前に十分に確認をしましょう。

③計画書はできるだけ平易な表現を心がけましょう

→後期博士課程の場合、審査（面接）に当たるのは自分が指導を希望する教員１名のみではなく、他にも「副査」として数名の教員が審査（面接）に参加するのが一般的です。そして、「副査」の教員の全員が自分の研究を希望するテーマを専門としているとは限りません。

～博士後期課程では高い学術的成果や貢献が求められるため、できるだけ専門性をアピールしたいという気持ちは分かりますが、その熱意がかえって審査に当たる人たちに対する不都合になってしまうこともあります。専門外の人間が読んだ場合でも内容を十分に理解できるように平易かつ簡潔に計画書を作成することが望ましいです。

※修士課程から継続して同じ教員の指導を希望する場合でも、「副査」が自分の希望するテーマを専門としているとは限らないという状況は同様になるので、研究計画書の作成に当たっては、できるだけ専門外の人間にも分かるような表現となるように配慮しましょう。

以上